

日本健康心理学会メールマガジン No.37



2015年8月24日 第37号

Contents

- 1) 学会からのお知らせ
- 2) 健康心理学コラムvol.32 日本大学 坂本真士先生

1) 学会からのお知らせ <http://jahp.wdc-jp.com/>

■機関誌「健康心理学研究」およびニュースレター「ヘルスサイコジスト」の電子化について

□機関誌「健康心理学研究」のVol.28(2015年度)より、No.1(7月末)、No.2(12月末予定)、およびSpecial Issue(2月末予定)が電子化されます。

□ニュースレター「ヘルスサイコジスト」電子版 2015年7月号・号外の発行ヘルスサイコジストが会員への一斉メールにて添付配信されました。電子版ヘルスサイコジストをご覧になりたい方は <http://jahp.wdc-jp.com/health/health1.html>

■日本健康心理学会第28回大会およびアジア健康心理学会議のご案内

詳しくは <http://jahp.wdc-jp.com/news/news.html>

■日本健康心理学会第28回大会(9月5日・6日：桜美林大学)速報(大会準備委員会より)

□プログラム速報版(7月27日版)が公開されました。

詳しくは <http://jahp.wdc-jp.com/conf/28th/program/index.html>

□会員集会のお知らせ(学会集会のお知らせ)

日時：9月5日(土)12:00-13:30 太平館レクチャーホール：

A200

大会初日の会員集会は、先着100名のランチミーティングとなります

□学会企画「疾病管理・疾病予防・ヘルスプロモーションに関する実践者のためのラウンドテーブル・ディスカッション」のお知らせ

日時：9月6日(日)12:00-13:00 明々館：A407

日本健康心理学会は、一般社団法人化して以来、第4期8年目に入りました。

新理事長の所信表明では、医療・保健・福祉の分野で活躍する人材を育てる、

またそのような分野の組織・団体とコラボレーションを行っていく方針を打ち出す予定です。

そこで、このラウンドテーブル・ディスカッションでは、疾病管理=糖尿病、心疾患、

脳梗塞などの慢性疾患の患者さん対象の行動変容、

疾病予防=生活習慣病やメタボリック・シンドロームなどのリスクが高い人対象の行動変容、

ヘルスプロモーション=生活習慣が乱れている健常人、または半健常人対象の行動変容など、

病院、地域、職域、学校で働いておられる方、また興味をお持ちの方に参加いただき、

ともに健康心理学の観点で必要なニーズや課題について自由に語り合ひましょう。

『昼食持参』でお集まりください。

■第98回、99回研修会詳細のご案内

□第98回健康心理学会研修会 2015年9月5日(土) 14時15分～桜美林大学

□第99回健康心理学会研修会 2015年9月5日(土) 16時～桜美林大学

詳しくは <http://jahp.wdc-jp.com/kensyu/kensyu2.html>

■関連学会情報

□第4回日本ポジティブサイコロジー医学会学術集会開催のお知らせ

日時：2015年11月28日(土) 慶應義塾大学

詳しくは http://jahp.wdc-jp.com/pdf/150805_positive.pdf

■東淀川ゲストティーチャ「ストレスマネジメント」教育担当者募集のご案内

詳しくは http://jahp.wdc-jp.com/pdf/2015_higashiyodogawa.pdf

2) 健康心理学コラムvol.32

「『新型うつ』を心理学的に調べる」

(日本大学文理学部 心理学科 坂本真士 先生)

私は抑うつや自殺に関して、主に社会心理学的な視点から研究してきました。

これまでの研究については、拙著「抑うつと自殺の心理学」(金剛出版)にまとめましたので、興味のある方はご覧ください。

さて、最近の研究テーマですが、「新型うつ」です。「新型うつ」はマスメディアが広めた用語で、精神医学的な定義はなく、実証的に検討することは容易ではないと以前から考えていました。

しかし、これまで抑うつを心理学の立場から研究してきた者として、自分に非があると考え自責感を訴える従来の抑うつとは大いに異なるとされている「新型うつ」に対して、「不思議なものだねえ、世の中変わるんだねえ」という感想だけで放っておくわけにはいきませんでした。「新型うつ」については実証的な研究、特に心理学的な研究がほとんどないことから、一丁、調べてみようかと思いたちました。

定義も、測定ツールも、理論もない状態でどこから手をつけてよいのかと思っていましたが、院生らとともに共同研究を進め、徐々に成果を公表するに至っています。

たとえば、「心理学評論」(2014)において理論的な考察を提出いたしました。研究チームでは、「人からの評価を気にしすぎ、ネガティブな評価を受けて落ち込む一方で、自分の気持ちの回復を第一に考えてしまい、結果的に周囲から理解されずにいる」状態ではないかと考えています(いまのところ)。

「新型うつ」はまだまだわからないことだらけです。一緒に研究をしてみたい、興味があるという方は、坂本までご連絡ください。ではまた。

参考

坂本真士(2010)抑うつと自殺の心理学：臨床社会心理学的アプローチ 金剛出版

坂本真士・村中昌紀・山川樹(2014)臨床社会心理学における“自己”：「新型うつ」への考察を通して 心理学評論 57, 405-429.

日本健康心理学会広報委員会

<http://jahp-public.blogspot.jp/>

メールマガジンの配信停止、アドレス変更については下記アドレスまで。

日本健康心理学会事務局 <jahp-post@bunken.co.jp>

メールマガジンへのご意見・ご感想については下記アドレスまで。

広報委員会 <jahp-ML@bunken.co.jp>